

公共施設ロビー展示（10月～12月）

展示者の都合により開始日・終了日が変更になる場合があります。新川・大浜・棚尾公民館は月曜日も開館します。

ところ	10月	11月	12月
新川公民館 ☎41-2103	植物画 (ポタニカルアート彩画クラブ)	干支の手工芸（月曜会）	革工芸 (レザークラフトシルク)
中部公民館 ☎42-8266	リフォーム作品（弥生会）	パッチワーク（布遊びの会）	ええコン作品展 (チャンネルDaichi) フラワーアレンジメント (五十嵐名保美)
大浜公民館 ☎42-1182	押し絵（つばき会）	七宝焼（グループ釉）	己書作品（高橋愛） 陶芸作品（神谷京子）
棚尾公民館 ☎41-0892	陶芸（加藤真誠） 陶芸（碧陶会） つまみ細工（街の会）	陶芸（石川文郎） 陶芸（碧陶会） 衣類のリフォーム（弥生会）	陶芸（杉浦勝） クレイフラワー（有永慈子） 衣類のリフォーム（弥生会）
日進公民館 ☎48-2678	俳句（気まま会） 木目込み人形 (木目込み人形教室)	己書 (秋の文化教室受講者作品)	PLAY ～わきでる個性～ (ARTIST JAPAN)
鷺塚公民館 ☎48-5412	和紙工芸（小原和紙の会） 部屋飾りアート（つばみの会）	筆ペン作品（あじさいの会） 手工芸（ビーズサークル）	押し絵（つばき会）
農業者コミュニティセンター ☎42-5888	写真 (碧南工科高校写真部)	西端自主防災会 (写真・資料)	押し花（よもぎ会）

碧南の歴史へのいざない

文化財課内市史資料調査室 ☎41-4566

No.111 碧南の寺を巡る（4）

寺の中に学校ができた その三

西端の應仁寺（油渕町）は蓮如上人ゆかりの寺です。蓮如上人は、西端出身の僧侶如光の招きにより西端に滞在し、三河での布教活動を行われたとか。出発の日、上人は「また折があったら来よう」と別れを惜しむ村人を慰めました。西端の人は上人の再訪を待ってここを寺（道場）とし、上宮寺（岡崎市）の隠居所の時代を経て、江戸時代に西本願寺派に転派して寺号を得てからも、住職は置かず村が守っていました。

西端の寺は、栄願寺（吹上町）と領主の命令により半崎から札木に移転した康順寺、そして應仁寺の三か寺が元禄年間（一六八八～一七〇三）から盛んになった蓮如忌のお参りコースでした。安政の大地震（一八五四頃）によって應仁寺本堂が倒れた際も村人が力を出し合い、文久年間（一八六一～一八六三）に再建しました。

明治の新政府は、諸寺を合理化しようと、住職や檀家のない寺の破却を命じました。應仁寺存続の危機でした。同時期の明治五年（一八七二）に学制が發布されると西端村はすぐに應仁寺の本堂を仮校舎として

郷学校設立の願いを額田県に出しました。太政官布告中、堂宇等について官製でなければ人民のものとして任せるという内容があり、村はこの条項を生かして学校にしたものと思われまます。寺の存続も請願しましたが、「應仁寺」は廃寺となりました。

明治七年（一八七四）愛知県は校舎新築を命じましたが、西端はその補助費で應仁寺再建時の負債を償却することが許され、旧應仁寺の建物・宝物の全てを学校管理としました。

その後、村は隣接地を買収、学校敷地とし、明治三五年（一九〇二）に校舎を新築、明治四三年（一九一〇）には石段下農地を運動場にしました（現在は油ヶ渕遊園地駐車場）。應仁寺は、昭和四〇年（一九六五）に小学校が現在地に移転するまで九〇年以上も学校とともにあったのです。

なお、應仁寺は、終戦後に浄土真宗単立寺院として届け出、現在も西端地区の寺としてにぎわっています。



應仁寺と西端小学校
写真上端が油ヶ渕